7　　の約束　　　　　　　　　　　　　文法④　カ変・サ変

読解　言動の意図をつかむ

新傾向　和歌との対応をつかむ

むかし、なりける人、おほうわのに、大和の国にりけり。といふわたりに、①げなる人の家より、女どもわらはべⓐで来て、この行く人を見る。きたなげなき女、いとをかしげなる子を抱きて、門のもとに立てり。このの顔のいとをかしげなりければ、目をとどめて、「②その子、こちてⓑ」といひければ、この女寄り来たり。近くて見るに、いとをかしげなりければ、「ゆめ、こと男したまふな。③われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどにⓒ参り来む」と言ひて、「これを形見にⓓしたまへ」とて、④帯を解きて取らせけり。さて、この子のⓔしたりける帯を解きて取りて、持たりける㋐文に引き結てもたせて㋑往ぬ。これをこの子は忘れず思ひ持たりけり。⑤男ははやう忘れにけり。

語注

内舎人＝省に属する官職の名。性格、才能、のすぐれた者を選んだ。

おほうわの御幣使＝大和の国（現在の奈良県）にあるに供物を奉納するための使者。以下、「井手」は京都南部の、奈良への道中。

【原文】

むかし、内舎人なりける人、おほうわの御幣使に、大和の国に下りけり。井手といふわたりに、清げなる人の家より、女どもわらはべ出で来て、この行く人を見る。きたなげなき女、いとをかしげなる子を抱きて、門のもとに立てり。この児の顔のいとをかしげなりければ、目をとどめて、「その子、こち率て来」といひければ、この女寄り来たり。近くて見るに、いとをかしげなりければ、「ゆめ、こと男したまふな。われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどに参り来む」と言ひて、「これを形見にしたまへ」とて、帯を解きて取らせけり。さて、この子のしたりける帯を解きて取りて、持たりける文に引き結ひてもたせて往ぬ。これをこの子は忘れず思ひ持たりけり。男ははやう忘れにけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

［　　　　　　］であった男が、御幣使としての旅の途中で、かわいらしい（＝［　　　　　　　　　　　　］）子を見かけ、成長したら自分と結婚する約束をして、［　　　］を交換した。しかし、この子は覚えていたが、男はこの約束を［　　　　］てしまった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を選べ。〈3点×2〉

㋐　ア　手紙　　イ　文章　　　　ウ　漢詩文　　　　エ　供物

〔　　　〕

㋑　ア　来る　　イ　行かせる　　ウ　連れてくる　　エ　帰る

〔　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓔの活用形を選べ。〈2点×5〉

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形

エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕　ⓔ〔　　　〕

問四　［チェック問題］動詞④　カ変・サ変

（1）次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| す | 来 | 基本形 |
| （す） | （来） | 語幹 |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
| 行変格活用 | 行変格活用 | 活用の行・種類 |

⑵　次の各文のカ変動詞には傍線、サ変動詞には波線をつけ、活用形を問三の選択肢から選べ。〈1点×5〉

1　故、宰相にておはしける時、…

2　かかることなむせむと思ふ。

3　返しをもせで、年越えにけり。

4　その御文持てとなむ聞きたまひける。

5　この男、三四日ざりければ、…　　（すべて『大和物語』による）

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕　5〔　　　〕

問五　傍線部①・③の現代語訳として最も適当なものを選べ。〈3点×2〉

①　ア　裕福そうな家　　　　　　イ　整った様子の家

　　ウ　質素にみえる家　　　　　エ　高貴な感じの家

〔　　　〕

③　ア　私に贈り物をください　　イ　私に誓ってください

　　ウ　私と遊んでください　　　エ　私と結婚してください

〔　　　〕

問六　傍線部②を現代語訳せよ。〈3点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部④とあるが、この時の「男」の説明として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　自分と結婚の約束をした証拠を残そうとしている。

イ　児に再会するまで生きていてほしいという願いをこめている。

ウ　貧しい暮らしのために役立ててほしいと思っている。

エ　約束を忘れないようにと母親に念押しをしている。

〔　　　〕

問八　傍線部⑤とあるが、「男」は何を忘れたのか。十字以内で答えよ。〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問九　次に挙げるものは、本文について調べた生徒の発表である。空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまるものとして、最も適当なものを選べ。〈3点×2〉

【発表】

　実はこの話は未完で、この後は途切れてしまっています。また、『大和物語』は歌物語ですが、この話には歌がありません。そのため、古くから、この話にはどのような続きがあり、また、和歌があったのかということを歌人たちが想像してきました。例えば、藤原は次のような和歌をんでいます。

　　解きかへし井手の下帯行きめぐりあふせしき玉川の水

　「解きかへし」は、帯を交換したことを示しています。「下帯」が「行きめぐり」、「あふせ嬉しき」というところから、この歌は［　Ⅰ　］という内容だとわかります。

　これに対して、藤原はこのような和歌を詠んでいます。

　　露ぞ置く井手の下帯さばかりも結ばぬ野べの草のゆかりに

　「露」は涙の比喩であるということ、「下帯」を「結ばぬ」という箇所があることから、この歌は［　Ⅱ　］という内容です。

　以上のように、様々な人が自分の解釈に合わせて未完の本文を完成させようという試みをしていたことがわかりました。

ア　男と女の子とは、帯のように巡りあって結ばれるようなことがなく、女の子は悲しんだ

イ　男が女の子のことを嫌がるようになり、女の子との縁も切れて再会しなかった

ウ　腰の周りに帯を巻き結びつけるように、男と女の子とが結婚することになった

エ　女の子が涙を流しながら男との再会を喜んだが、結局は結婚することがなかった

Ⅰ〔　　　〕　Ⅱ〔　　　〕

【解答】

問一　内舎人／をかしげなる／帯／忘れ

問二　㋐＝ア　㋑＝エ〈3点×2〉

問三　ⓐ＝イ　ⓑ＝カ　ⓒ＝ア　ⓓ＝イ　ⓔ＝イ〈2点×5〉

問四　(1) 〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| す | 来 | 基本形 |
| （す） | （来） | 語幹 |
| せ | こ | 未然形 |
| し | き | 連用形 |
| す | く | 終止形 |
| する | くる | 連体形 |
| すれ | くれ | 已然形 |
| せよ | こ（こよ） | 命令形 |
| サ行変格活用 | カ行変格活用 | 活用の行・種類 |

(2)　1＝おはし／イ　2＝せ／ア

3＝せ／ア　　　4＝持て来／ウ　5＝来／ア〈1点×5〉

問五　①＝イ　③＝エ〈3点×2〉

問六　その子を、こちらへ連れて来い〈3点〉

問七　ア〈6点〉

問八　児との結婚の約束。（9字）〈6点〉

問九　Ⅰ＝ウ　Ⅱ＝ア〈3点×2〉

【現代語訳】

昔、内舎人であった人が、大神神社の御幣使として、大和の国に下った。井手という（ところの）あたりに、整った様子の家から、女たちや子どもが出てきて、この通る人を見る。見苦しい感じのしない女が、とてもかわいらしい子を抱いて、門のところに立っている。この子どもの顔がとてもかわいらしかったので、（内舎人なりける（内舎人であった）人が）目をとどめて、「その子を、こちらへ連れて来い」と言ったので、この女は寄ってきた。（内舎人なりける（内舎人であった）人が）近くで見ると、（やはり）とてもかわいらしかったので、「決して、他の男と結婚しなさるな。私と結婚してください。大きくなりなさる頃に参ろう」と言って、「これを形見にしてください」と言って、帯を解いて与えた。そして、この子のしていた帯を解いて受け取り、持っていた手紙に結んで持たせて帰る。これをこの子は忘れずに心に留めていた。（ところが）男はなんと忘れてしまったことよ。

【補充問題】

問１　「目をとどめて」（４行目）とあるが、「内舎人」はなぜそのようにしたのか。簡潔に説明せよ。

問２　「これ」（７行目）の内容として最も適当なものを選べ。

ア　内舎人が、女と児の容姿をほめたたえたこと。

イ　内舎人と児とが、帯の交換をして結婚の約束をしたこと。

ウ　児が、内舎人に結婚の約束を記した手紙を渡したこと。

エ　内舎人が、児と交わした約束を裏切ること。

【補充問題解答】

問１　女の抱いていた子の顔がたいそうかわいらしかったから。

問２　イ